

宮城県農業高等学校

令和3年に宮城県内高校初のASIAGAP認証を取得。天敵を活用した総合的防除を導入実践し、地域においてIPMのモデル圃場としての役割を担う。

代表者名：浅野 伸一

所在地：宮城県名取市

認証：ASIAGAP(令和3年)

面積：4.212a

構成員：29名

品目：トマト

取組の紹介

【生産工程管理の改善に向けた継続的な取組】

- 生徒がフロー図、ハザード一覧、手順書を一体的に活用し自ら栽培管理学習を行うことで、GAPの継続的な取組が実現。

【生産効率性の向上に向けた取組と効果】

- 収穫調整作業に関するマニュアル、栽培手順書等の活用により、実習の理解度向上。
- 栽培計画と生産実績、マスバランスの確認により、栽培管理を改善。

【経営改善に向けた取組及び効果】

- IPMを導入し、天敵農薬を使うことで薬剤散布に係る薬剤費及び労働時間の削減を実現。

【地域内外への波及効果】

- 薬剤抵抗性の発達が課題となっている害虫について、IPMを活用して教育機関としての実証調査を行い、HP等により情報発信。
- 食品加工業者との連携授業やGAP認証を取得したトマトの加工品開発に挑戦。

【地域の牽引役としての貢献】

- GAP公開審査会や指導者養成研修会を開催し、国際水準GAPの理解増進及びGAP指導員の指導力向上を図る活動を実施。
- IPMの実証ほとして地域農業に貢献。



ASIAGAP認証審査を受審



天敵製剤を活用したIPM技術導入実習



GAP認証取得したトマトで漬物を試作

ホームページ・SNS等